

# まちかど

●荏原第一地域新聞●

## 花めぐり

### ハナキリン

ハナキリンは名前の通り、長い首の先に可愛い鮮やかな赤い花を咲かせるトウダイグサ科の多肉植物です。多肉植物とは葉、茎、根の肉部の柔組織に水を貯蔵している植物です。首のように長い茎には2cmほどの鋭いトゲがあります。



あたたかな場所であれば、一年中花を咲かせます。この珍しいハナキリンは、荏原2丁目の加藤さんのお宅に咲いています。40年程前から育てているそうです。「寒いとお家の中に入れてたりするのよ」と楽しそうに話してくださいました。

大切に育てられているハナキリン、皆様も是非ご覧ください。

(中原共和・青木 富代)

青少年対策荏原第一地区委員会による初秋の企画「親子で行こう！秋の味覚！くり拾い・なし狩りバスツアー」が9月29日(日)に実施されました。当日は気持ちの良い秋晴れとなり、参加者総勢76人全員がワクワクした気持ちで、バスに乗り込みました。行き先は茨城県かすみがうら市にある「矢口果樹園」。かすみがうら市千代田地区最大の農園です。果樹園に到着し、農園の中を散策しながら栗拾い場へ。昆虫や自然の生き物があちらこちらから顔を出し、子どもたちは大喜びです。栗は木の上で十分に熟すと、自然にイガが開き実が落ちてくるのだそうです。大きな栗や、指で押して実が詰まっていそうなものを選りすぐり、親子でたくさん拾うことができました。栗拾いが終わると、ちよつと早めの昼食タイム。青空の下、ぶどうの木の下でレジャーシートを広げてお弁当をいただきました。家族やお友達とともに、にぎやかな昼食となりました。昼食の後は梨農園へ。みずみずしい梨が木にたくさんなっています。手でもいでプラスチックナイフを使い、その場で皮をむき新鮮な梨をいただきました。小さいお子さんも上手に皮をむいて、果汁たっぷりの梨にかぶりつき「とってもおいしい！」と喜びの声が溢れていました。

栗拾いや梨狩りで秋を楽しむ  
地区委員会のバスツアー



ぶどうの木の下での昼食

武蔵小山へ帰るバスの車内では、眠りについて身体を休めたり、静かにDVD鑑賞をする子どもたち。途中、道の駅に寄りひと休みも。霞ヶ浦の雄大な景色を眺めながら、ご当地グルメを食べ、地元産の野菜やお菓子の土産を購入しました。そしてバスは無事に武蔵小山に到着し全行程が終了しました。今回の企画も多くの方に満足していただけた内容となりました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。(事務局)

## あわせ俳句で脳トレを

さる11月20日(水)午後2時より、荏原第一地域センターにおいて「ふれあい健康塾」の定例会が開かれました。出席者は18名。いつものように講

師の指導のもと、全身の筋肉をほぐす歌体操などを行い、後半は「あわせ俳句」を作って楽しみました。

俳句のテーマは「秋」。最初は俳句の上五・中七・下五を作る3グループに分かれます。句箋を前にして、鉛筆を握る皆さんの表情は真剣そのものでした。それぞれのグループから句箋を集めて、組み合わせを考えながら、一句に仕立てていきました。たくさんさんの俳句ができましたが、会員・スタッフともに人気投票をして、上位に選ばれた四句をご紹介します。

- ◎秋晴や 雲ひとつなき 七五三
- ◎銀杏の 木手をつなぐ子の 笑顔かな
- ◎富士山や 雪の帽子を かぶる頃
- ◎秋の夜 化粧落して 読書する

(荏原第一地区健康づくり推進委員会 代表・吉田 久美子)

## 自然災害に備えて 要支援者対策を強化

中原共和町会

災害時に自主避難が困難な方を「避難行動要支援者(要支援者)」と呼びます。いつ災害が起こってもおかしくない今、いざという時の支援体制をしっかりと作っておくことが重要です。

そんな中、中原共和町会では、昨年モデル地区として他町会に先駆けて「避難行動要支援者の支援体制づくり」への取り組みを行いました。その内容をご紹介します。

まず昨年9月、要支援者の個別計画書を作成しました。個別計画書とは、要支援者の所在地や状況等はもちろん、配慮事項について記載したものです。支援を行うためには、平常時からの関係づくりが重要であり、両者のコミュニケーションづくりなども確認しました。

そして10月には、避難誘導ワークショップを実施。要支援者にも参加していただき、災害時に起こりうる被害を考えながら、車いすでも通りやすい避難経路の検討や、災害時の危険個所を確認することができました。

今後の課題は、マンションでの要支援者の避難誘導について、エレベーターが使用できない場合等の対応について検討することです。これまでの経験を生かして、継続

的に活動を続けるとともに、マンションの自治会との連携についても検討していきたいと考えています。

(中原共和町会会長・小野澤 昭裕)

## 創刊200号に寄せて

『まちかど』を通して

町会員同士の親睦をはかる



「継続は力なり」。先ずはおめでとうございます。そしてこれを支えてくれた皆さん本当にご苦労様でした。

昭和61年7月の創刊のこと。私が44歳の時、もう33年前のことです。私は定年まで「まちかど」を知らず、読んだこともありませんでした。その後、近所に住む同期の友人と共に町会活動に参加し、初めて「まちかど」を知りました。「へえー、温かい街のにおいがするいい名称だなあ」これが第一印象でした。

中身も地域ならではの情報や話題、花めぐり、地域の人たちが投稿した俳句・川柳・短歌など、身近な街の空気が伝わってきました。毎号読もう、そして近所の人たちにも読んでもらおうと思い、以来私の担当区域51軒の皆さんに毎号個別配布しています。「まちかど」を通して同じ街に住む人々がどこかでつながってほしいという思いからでした。たまに私の知り合いが投稿している文章や句を見ると、一層親近感が湧いてきました。

先日、「まちかど」を個別配布している戸建30軒の皆さんに「たまには一杯やりながら語り合いませんか」と呼びかけると、20名が参加してくれました。40代〜80代まで、男性14名女性6名、一人暮らしの高齢者、4年前に引越してきた共働きの夫婦、事業主の父子等、普段近所に住みながらほとんど付き合っていない人も含め、多彩なメンバーの顔合わせでした。乾杯のあと全員で自己紹介、その後はあちこちで話に花が咲き、最後はカラオケで大いに唄い、大変楽しく親交を深めた一ときとなりました。まさに「まちかど」の雰囲気でした。200号を機に「まちかど」が地域の皆さんにより愛読され温かい街づくりに一役買ってもらうよう祈念致します。

(荏原4丁目町会

副会長・大高一 浩)